



龍門滝



かじき

広報

宇都宮町長 題字

人口・世帯の動き

(平成4年9月1日現在)

総人口23,579人(△1)	出生 23人
男 11,001人(15)	死亡 13人
女 12,578人(△16)	転入 121人
世帯数 8,459 (4)	転出 132人

●()内は前月との比較●

子どもと公園

澄んだ秋空の下、網掛川上流の公園で、白黒のボールが宙を高くと舞い、その下をチビ子たちが黄色い歓声をあ

げ、元気にサッカーを楽しんでいる。

この千鳥公園は、たいへん広く、子どもやお年寄り、それに一般の方も一緒に楽しめる〇・六四畝(六反四畝)の広大さを誇るもので、平成五年度には完成の見込み。今し

ばらくお待ちください。

昔は、山や川、海で思いっきり遊んだものですが、近ごろの子どもには公園だけが唯一の遊び場。チビ子のみならず、町内には公園がたくさんあります。気軽に遊んでください。



広大な広さをほこる千鳥公園

平成4年

10

月号

今月のページ

☆椋鳩十の生まれ故郷を訪ねて・加治木郷土誌を発売
 ・かじっがらす……2頁 ☆敬老特集……3頁 ☆ま
 ちらの話題4～5頁 ☆スポーツ……6頁 ☆椋鳩十の
 本・加治木の伝説……7頁 ☆おしらせ……8頁

椋鳩十の生まれ故郷を訪ねて

青少年交流事業

椋鳩十の生まれ故郷を訪ねよう。と八月二十二日から二十五日までの四日間で行われた「青少年交流事業」に参加した町内小・中学校の十一人（小七人、中四人）が、長野県喬木村を訪れました。

これは、町制施行八十周年記念と椋鳩十文学記念館開館三周年を記念して、鹿兒島の自然と子どもたちをこよなく愛された椋鳩十先生生誕の地を訪問し、大自然の中から生まれた椋鳩十文学に接するとともに、地元の子どもたちと楽しく交流し、豊かな感性と創造性を育てることを目的に行われたも

です。一行は、夕日の丘公園や椋鳩十文学記念館、安養寺、椋鳩十記念碑、犬山城など名所旧跡を訪れたり、天竜川舟下りにも挑戦。喬木村の大自然にふれ、人間や動物に対する愛を育ませた椋鳩十先生少年期に心を馳せ、あらためて自然のあたたかさを感じ取った様子でした。

また、彼らは久しく親元を離れたせいか、楽しい中にも時折、その目はふとさみしげに。あらためて両親のありがたさを痛感したことでしよう。



地元のこどもたちと一緒に

かじっ ガラス



▼ある日、突然、目が見えなくなったら
……それも全盲に。

もし、自分が……と

考えただけでも、背筋がゾツとする。これほどのショックはあるまい。

光を失うと、人間誰しも生き

ることの虚しさを痛感するといふ。しかし、人はあらゆる試練に堪え、生きること敢然と立ち向かわなければならぬ。

▼月野木博さん（四十二歳・田中）もその一人。三十四歳の若



点字講習会を終えて

さで突然、全盲になった。とかく減入りそうになる自分を勇気づけ、また奥さんのかいがいしい世話にも助けられ、新しい天地を求めて盲学校に入校し三年で、はり、きゆう、あんま・マッサージ・指圧の資格を取得した。

加治木で治療院を開業するかわら、町の点字講習会の講師を引き受けた。

月野木さんの努力と旺盛なボランティア精神に感じ入り、自分が点字にのめり込んだことが書かれ、現在、伏木海上保安部長として勤務するかたわら、将来、海のことを盲人の方に紹介しようと思気込んでおられる。微笑ましいことだ。点字を学ぶ人の励みにもなる。

月野木博さんと点字

愛のつとせしびを刻む

め始めた点字が、以来、自身の生きがいになっている。

▼月野木さんの情熱は、やがてボランティアの手を通じ、一字一句たんねんに刻み込まれ、盲人の方のうつつとわだかまる心に一筋の光明をもたらす、愛のともしびを刻むことだろう。

▼北陸の新聞に、海上保安庁鹿兒島空港基地長をしていた青山さんが、加治木町の点字講習会を受け、北陸に転動した後も、月野木さんとの点字交流を続けていることが掲載されていた。

月野木さん、これからがんばってください。

改訂版 加治木郷土誌を発刊!



加治木町町制施行八十周年に当たり、その記念事業の一つとして昭和四十一年三月に県下に先駆けて発刊された「加治木郷土誌」が見直され、さらに筆を加えて充実した内容で発刊されます。

- 一、発行 加治木町
- 二、編集 加治木郷土誌編さん委
- 三、販売価格 一冊三、五〇〇円 (消費税込み)
- 四、販売予定日 平成四年十一月中旬
- 五、申込先(お問い合わせ先) 加治木町立図書館
- 〒八九九一五二 加治木町飯屋町二五〇番地 ☎〇九九五六一二二六〇五

堂免久子さんらに敬老金

敬老金贈呈式・合同金婚式



金婚の杯をしみじみと

この後、合同金婚式が行われ、仲むつまじく共に助け合い五十年を迎えられた二十九組のご夫婦が金婚の杯をかわしました。

金婚者（敬称略）

「敬老の日」を祝し九月十日、町敬老金等贈呈式並びに合同金婚式が福祉センターで開催されました。

敬老金等贈呈式では、八十歳以上のお年寄り九百三人を代表し、今年八十歳を迎えられた堂免久子さん（田中）に、宇都宮町長から「これからもお元気でがんばってください」と敬老金が手渡されました。

今年の敬老金支給対象（一年以上町内に住居を有する方）の八十歳以上の数は九百三人で、うち九十歳以上の方が百十二人。また、ねたきり老人等介護者は五十二人でした。

- | | |
|----------|---------|
| 松元虎吉・久子 | （蔵王団地） |
| 田島哲夫・ココ | （内原田） |
| 松元時義・スミエ | （萩原） |
| 若松虎志・トミエ | （〃） |
| 恒吉弘志・ユキノ | （吉原） |
| 中村藤男・フヂエ | （柳田） |
| 村岡俊二・玉 | （端山） |
| 井上弘・ヒテ | （毘沙門） |
| 川畑茂・フサ | （向江町） |
| 寺師榮・カメイ | （岩原東） |
| 松元緑・フミ | （〃） |
| 日置義光・ハツ子 | （岩原西） |
| 和田杉雄・ステ | （明神） |
| 川越榮次・ノブ | （新中） |
| 阿部久太郎・サキ | （上木田） |
| 穂森實・トキエ | （高井田） |
| 岩元友由・クニ | （原ノ門） |
| 岡田正善・ウタ | （丸岡） |
| 中森重春・道江 | （隈原下） |
| 中森一雄・ハナエ | （永原） |
| 東藤男・エミ子 | （菖蒲谷） |
| 蓬原初美・ハツ子 | （日本山黒川） |
| 美坂政男・實子 | （里ノ下） |
| 吉村重義・清子 | （中野） |
| 有村藤男・トミエ | （〃） |
| 常盤義男・ツヤ子 | （鶴原） |
| 日高初男・秋江 | （市野） |
| 外園實志・キミ子 | （井手向） |
| 山元重志・ユキエ | |



あすなる会員の演劇に大笑い

この世に生を受けて、私も八十歳になりました。

よくも、こんなに生き長らえて来たものだ、自分ながら感心しています。

お蔭さまで、金婚式という人生最大のよろこびと言います。うか、結婚して五十年も続いたとは夢にも思っていませんでした。

この間、幾多の難儀、苦勞、かんなん辛苦に堪えてきたことは言うまでもありません。

思い返せば、太平洋戦争その最中、その前後、皆さまご承知のことと思いますので敢えて私が言う必要もないでしょう。

一緒に飲めや歌之と...

敬老の日

九月十五日の「敬老の日」を祝し、町内各自治会ごとにさまざま催しがありました。

二、三ご紹介します。

中浜・下浜自治会

お赤飯やご馳走を前に、お年寄りらは子ども会のわらべ歌を聞いたり、婦人部のマ스ゲームを楽しみました。

下新道公民館

歌や踊りでお年寄りをもてなした後、手づくりの初午で馬踊りを披露すると、喜び勇んだお年寄りが次々と庭に飛び出し、みんなと一緒に踊りだしていました。

岩原公民館

岩原西・東の両自治会の敬老会は合同で行われ、毎年恒例になっている「あすなる会員」の演劇を楽しみました。

あすなる会は、全員男性たちばかりの会員。女装姿のおかしい草や、鹿児島弁でユーモアたっぷりの演劇に、お年寄りらはおかしさをこらえ切れず、笑いの渦と歓喜の涙に見舞われていました。

その後、たくさんのご馳走やおいしい焼酎を腹一杯たいらげ、久しぶりにみんなと一緒に、飲めや歌えと騒いでいました。

随筆



金婚式を迎えて

松元久子さん

「ほうい、まだまだ先は七、八年だなあ」と目下思案中です。

私は再婚したので、今日の人数の中では最高年齢者だったでしょう。恥ずかしい限りですが、私にとっては一生の喜びに堪えません。これも、主人が長命で生きていてくれましたのでその故もありましょう。

今思うことは、亡母の年になんて生きたいなあと思えばかりを願っています。母は八十六歳、昔で言えば八十八歳でした。

今ほもう二人共病院の御厄介になつてしまいました。

まだまだ生きたいのに、先のこと案じられてなりません。

もう、いつ死んでも良いと思つていすのに、人間の欲というものでしょうか。死にたくもあれば、死にたくもなしというところ。続く限りは何とか頑張ってみましょう。

恥ずかしいですが、思いのままに書いてみました。

まだまだ元気です。

身近な話題やニュースは文書係まで (☎62-2111)

Town NEWS

●まちの話題



ローラーさんはつよい?

ローラーさんすもむに挑戦

永原小学校では九月二十八日、十五夜の行事として地域の老人クラブや父兄を招待し、全校生で相撲大会を行いました。

中でも、女の子の相撲はおかしく、さつと立つや、すぐお互いの両手を合わせ、スロースローダウンのリズムで、さながらダンスの様。豆行司の「はつけよいー!」というかけ声すら違和感がただよい、踊っているうち、いつの間にか土俵の外に足が出たという感じでした。

さて、最後は三人抜き戦。五年生の中でも小さい方の老岐大介く

んは、大きな身体の同級生を次々と、(どうにか?) 破り、小よく大を制し、場内から盛んな拍手がわき起こっていました。

また、始良教育事務所の英語指導手のローラーさんも特別参加し、元氣いっぱい児童たちを相手に手こずっていました。彼女がユーマラスで茶目つ気のある動作や、相撲が終わってそのまま出ようとする児童に「ダメ! オ辞儀シナサイ」のかけ声に、見守るお年寄りらは「うん、うん、じゃっど、じゃっど」と満足そうに頷いていました。



きまった! うわてなげ?



文之和尚の墓前で

文之和尚の遺徳をしのぶ

町史談会(白尾春樹会長)では九月三十日、文之和尚の遺徳をしのび、七十人あまりの会員が参加

して、安国寺で三七三回目の遠忌法要を営みました。文之和尚は、戦国末期に活躍さ

三七三回目の遠忌法要

安国寺

れた名僧で、その墓は加治木町では唯一国の重要指定文化財。老杉のこずえからみれる陽が神々しく差す墓前は、星原玄省住職さんの余韻々々と流れるお経の音に包まれ、厳肅な雰囲気。供えられた色花も、文之和尚の霊を供養するよう、時折吹く微風にかすかに頭を垂れていました。

また、本堂で催された仏前回向では会員らが順々に焼香し、その後、白尾会長が「文之和尚と加治木」と題して講話。みんなは熱心に聞き入り、あらためて文之和尚の偉大さを感じ取っていました。



おおぜいの人が……



ほこらしげに立つ田の神

しゃもじで手に微笑む

田の神

遠い日の思い出に

駆り立てられて

小山田地区ふるさと祭り実行委員会（吉村貢委員長）では八月二十日、「第三回ふるさと祭り」を竜門小学校で開催しました。

この日は、おおぜいの人たちでにぎわい、特に町外や下場に転居した方々は、幼い頃のふるさとの遠い日の思い出に駆り立てられたようにぞくぞくと集まり、昔の竜門祭をしのぐほどのにぎわいを見せていました。

このふるさと祭りは、四地区公民館はもとより西元五月会、布越

六三会などの強力な後援のもと、地域の活性化を図り過疎化に歯止めをかけ、今やわずか七十八人となった竜門小学校の児童や、地域の子どもたちに「記憶に残るふるさとの思い出」を強く刻もうと企画されたものです。

このふるさと祭りも今年で三回を迎え、出演者もお互い慣れたもので和気あいあい。観客も手拍子とともに話しもはずみ、夏の夕暮の楽しいひとときを過ごしていました。

第三回

ふるさと祭り



西反土後の

「田の神さあ」

千鳥橋のたもとに、しゃもじを片手におどけた表情でニッコリ微笑む「田の神さあ」。

そのほこらが、この度の千鳥橋の完成に合わせ、坂元鉄工所（坂元正広さん）の奉仕で、鉄骨の屋根に作り直されました。

これは、西反土後の守り神で、文政元年と背に刻まれた歴史の匂う年代物。屋根付きの田の神は町内でも珍しく、住み心地がいいのか、田の神は黄金色に輝く稲穂の海を静かに見守っていました。

この地域は、今でも豊作を祈願して毎年三回、各家を持ち回りで「田の神講」を続けています。

学校だより

お年寄りに励ましの便りを

▽：交通安全活動も

柁城小学校

柁城小学校では九月十五日の敬老の日を前に、四年生から六年生までの児童が校区のお年寄りに愛のハガキを送りました。

これは、児童にお年寄りを敬うことを教え、またお年寄りに可愛い孫たちの慈愛のこもった活字のことばを見て、元気になってもらおうと実施したもので、この愛のハガキを受けとったお年寄りから学校にお礼がたくさん届き、児童らはたいへん感激していました。ハガキは町社会福祉協議会が集めた使い古しや書き損じたものを郵便局で

交換したものです。

また、柁城小は、県社会福祉協議会からボランティア育成事業協力校に指定され、校区内の清掃、緑化活動などを積極的に行っていきますが、その一つ、交通安全活動では、交通安全の意識高揚に一役買おうと九月二十四日、蒲生田通りから国道、新道通りを交通安全パレードしたり、九月二十九日には校門前でドライバーのみなさんに「事故を起こさないように安全運転をしてください」と書いたチラシを配布しました。



ポストに投かん

加治木トピックス

楽しくスポーツを

町社会福祉大会並びにスポーツ大会



表彰状を手に

第十四回町社会福祉大会並びにスポーツ大会が九月十三日、町営体育館で開催されました。

福祉大会では、社会福祉に貢献された六人の方々をそれぞれ表彰しました。

その後、スポーツ大会を行い、各福祉団体別に分かれ二十二の種目を和気あいあいのうちに競い、楽しい一日を過ごしました。

表彰された方は、次のかたがたです。(敬称略)

- 福元正美▼堂森勇▼中村敦子
- 山内麻子▼下川清隆▼児玉周子

スポーツの秋を堪能

グラウンドゴルフが優勝

県民体育大会

好天に恵まれた九月十九日と二十日、第四十六回県民体育大会が開催され、加治木町のグラウンドゴルフチームが見事優勝の栄冠を手中におさめました。

このチームは、始良伊佐地区大会で優勝した同じチーム。原口昭治監督ほか蘭田義則(七四)、長重住義(七四)、川原芳隆(七七)、原口ムツ子(五九)、川原ヨシ子(六四)、日高シツ子(七三)さんの六人が健闘されました。(敬称略)

町内では、バスケット、ラグビー

、すもう、クレイ射撃の四種目が行われ、中でも、すもうが行われた加治木小学校の土俵のまわりは、地元木田地区のすもうファンがぐるりと取り囲み、一番一番が大声援。すもうの醍醐味は、何といても最近での観戦で、ドスン、ドスンと鍛えあげられた強健な身体がはげしくぶつかり合う肉弾戦は、まさに迫力満点。それぞれ五つの会場に押しかけた観客らは、四つの競技を思う存分観戦し、スポーツの秋を堪能しました。



功労者を表彰



グラウンドゴルフはまかせて

創立二十周年記念式典を開催

町ソフトボール協会

町ソフトボール協会では九月二十三日、「創立二十周年」を祝して記念式典が福祉センターで行われました。

式典では、迫田正則会長が「二十十年の節目を大事にし、これからも協会発展のため、また健康で文化的な生き生きとした町づくりのため微力ながら貢献してまいります」とあいさつしました。

その後、昭和四十七年に発足以来、協会発展のため尽力された方々の表彰も行われました。

- 被表彰者(敬称略)
- 協会役員関係者▼溝口宏二▼高

- 山卓爾▼堀切薫▼徳寄園宗
- 優秀チーム▼あすなろ会▼加治木セントラル▼加治木クリーン▼加治木町役場ソフトボール部▼加治木合庁クラブ
- チーム育成者▼川原正三▼蘭田英実
- 優秀選手▼山路正春▼寺師秀孝▼瀬戸口昭▼宮之脇徹▼松尾秀清▼内田博▼岩穴口弘行▼安藤政司▼竹下健二▼川田伸幸
- 優秀審判員▼今吉昭男▼木場政夫
- 特別功労者▼松迫学

お便り ぶんちんを自慢

北九州市在住の岡山幸子さん

毎月「広報かじき」を送って頂き、ありがとうございます。七月号では、「くも合戦」発祥以来四百年記念に、町制施行八十周年と、上乘の祝賀におめでとうございます。上には、「わがふるさと」を自慢したいです。

また、私の母校・錦江小学校の生徒が硬筆で優賞するとは、二重も三重にも光栄に思い、また自慢したいです。成績不良の私も赤面の至です。

これも、現代の先生達の教育方針が変わったのだなと思えます。これからもわが母校・錦江小学校から優秀な生徒が生まれることを祈りつつ、筆をおきます。

来年の滝サミットの成功祈っています。

本十の十 椋鳩十 (15)

かわウソの海

椋鳩十著 (一、〇〇九円) ポプラ社

椋鳩十の児童向け作品の初期のものとしては、加治木時代に書かれた「山の太郎グマ」から「栗野岳の主」にいたる昭和十年代の作品をあげることにする。

そして、これらの作品が次第に世にみとめられて、作家椋鳩十が生き続けることになる。

これらの作品を経て、戦後昭和三十年代後半から、四十年代中ごろにかけて、「孤島の野犬」「マヤの一生」「カガミジシ」などが生まれる。

一貫して椋文学の魂はつらぬかれていくが、戦前と戦後とは、読者への訴え方がちがう。

さらに、四十年代後半から新しい視点にたつて取材し、作品の構成に苦心がなされている。

「かわウソの海」は、ここに誕生した。昭和四十八年〜四十九年にかけて作品は発表されている。今ひとつ言えることは、五十年から五十二年にかけて、全四巻になる離島ものがたりへと深められていくということである。

「かわウソの海」

越智信夫は、真剣にかわウソ問題に取り組んでいる。

メスカワウソ耳白の話材が相

当長く続き、三人の男が出てきたり、北川、前田という人物が出てきたりするが、終始、越智信夫なる人物が起伏する。

物語の場所は、四国宇和島の海である。

物語の最後を述べてみることにする。

越智信夫は、遠くから耳白親子をながめながら、

「やっぱりお前たちの領土は宇和海全体だったのだ。……」

お前さんたちの手に、自由の宇和海を、とりもどさなければならぬのだが……。

さあ、どうしたらいいのかなあ。わしは罪ほろぼしのために、そうしたいのだが……。

と。つぶやくのであった。

さて、物語全体を通して、作者椋鳩十は、なにをうたったえようとしたのであろうか。

この作品は、長い物語である。小学校上級生から中学生向けである。読書力のある人も腰をすえて何回も読みこんでいかな

いと、物語の根をさぐりつけるのに苦労するであろう。

△解説 椋鳩十文学記念館長 榎蘭高雄▽

特集 かじきの史 歴 (伝説②)

おのぶの火



昔、何代目かの加治木島津家へおのぶという美しい奥女中が奉公していた。しかし、ご禁制の不義な行いがあつたため、当時、岩原のはずれの地蔵原の松並木のほとりにあつた刑場で処刑されて死んだ。

それ以来、毎年九月の陰鬱な雨夜には、この刑場から鬼火が飛び出し、ふわりふわりと流れて宇曾ノ木滝の方面に飛んでゆくと、はるか楠原のとつ仏の松の根もとから出た鬼火と一緒に、そこらじゅうを飛び回っていたといふことである。

このとつ仏の火は、たぶん相手の男の魂であつて、現世にあつたときのはかない恋を、火玉となつて互いに逢瀬をたのしみ語り合っていたものであろうといわれている。

むかしし むかしのお話 (加治木郷土誌より)



八幡神お通りの跡

いつの時代か分らないが、八幡神が西の方の国から国分へ示現されたときに、そのお通り筋といふものが伝えられている。

まず、鹿児島郡吉田村の辺にその最初の駐在所があり、その次に蒲生八幡が第二の駐在所であり、第三は始良町の新正八幡であり、その次は加治木の高倉八幡であつて、その辺にお腰掛岩といふところがある。加治木町木田の百姓が八幡と特別な関係があるのはこのためで、八幡屋敷などもそのころからのものであろう。

八幡が西市来方面からきたといふ説があるが、これは学問的にもおもしろいといえよう。

仮屋馬場の化け婆

むかし、島津義弘公の時代、当時、仮屋馬場の東にあつた稲荷神社前の石垣の上に、毎夜丑満(午前二時ごろ)になると、どこからともなく化け婆が出てきて腰掛けて、芋を續ん(麻をつむぐ)でいるという噂がたつた。

加治木衆中の血気にはやる青年たちで、誰か進んで化物の正体をつきとめる者はないかと評議の結果、一人の士が自分にそれを退治させてくれと申し出た。

そこでその士は、時刻をみはからつて、例のところ忍び寄つてみると、真つ暗闇の中にも、化物の正体がハッキリと浮かび上がった。八十余りにも見える白髪を振り乱した婆さんが、片足を曲げ、片足を垂れて石垣の上に腰掛けて一心不乱に麻を編んでいるではないか。ときどき、チラッとこちらをにらんでニヤニヤ笑う格好は、真にもつごいものであつた。

例の士はいよいよこれは孤狸のしわざと思つて、腰の一刀を抜き放ち、ヤツとかけ声もろとも頭に目がけて斬りつけたが、化物はこのとき早くも宙に飛び上がり、闇の中からカラカラと笑いながら消え失せてしまった。そして刀は宙を切つて、ついに石垣の面を斜めに切り下した。

以前は、その切りあとが残つていたといふことであつたが、今はわからない。場所は今の加治木高校の表門の付近であつたといふ。



農業祭あらため

第14回かじき秋まつり

- 11月29日(日)・午前9時30分
- 役場(体育館・グラウンド)

☆おたのしみ抽選会

- 特等 カラーテレビ
- 一等 自転車(二組)

- 加治木小の吹奏楽
- 加治木幼稚園のゆうぎ
- 農協・漁協・商工・各婦人部の演芸大会
- 新鮮な野菜・肉・町特産品展示即売

1992 おしらせ



親子映画鑑賞会

〔福祉センター〕
日時 11月14日(土) 14時
映画 ①お兄ちゃんとおぼくの七転八起

日時 12月12日(土) 14時
映画 ①走れぼくの友だち ②ミッキーマウスとゆかいな仲間たち

〔椋鳩十文学記念館自由の館〕
日時 11月22日(日) 10時

映画 ①赤ずきんちゃん ②名犬ラッシー ③ブレイメンの音楽隊
日時 12月19日(日) 10時
映画 ①愛犬カヤ ②かさ地蔵 ③アニメイム

うぶ声



主催 加治木町親子映画会
※無料ですので児童・生徒・親子多数ご鑑賞ください。
(都合によりフィルムが変更することがあります)

出生児 保護者 自治会
久保蘭 翔 隆 蔵王団地
桃木野このみ 祥一 西江口団地

御寄付

町社会福祉協議会へ

- 三万円 弥勒 平田静哉(妻 よし七)
- 三万円 柳田 池田ユリ子(夫敏春三)
- 五万円 西反土後 仮屋蘭スミエ

- 石坂明夢美 孝成 赤坂
- 山崎一輝 秋広 郁文館住宅
- 藤野真登 洋二 空港団地
- 島津久崇 義秀 柳田
- 湯川真海 春海 原ノ門
- 三重 尚人 健二 新富団地
- 下堂 敏直 純二 上木田
- 澤崎 舞耶 安幸 郁文館住宅
- 本村 優佳 純一朗 田中
- 川邊 一輝 久志 札立
- 川崎 倫志 和人 葛蒲谷
- 島田 佳奈 房夫 郁文館住宅
- 伊牟田 諒 誠 毛上
- 下小牧 潤 政広 春日団地
- 高崎 勇樹 雅信 高崎
- 宮蘭亜紗美 雄造 原ノ門
- 蓬原 将人 秀行 岩原東
- 重森 允瑠 忠 東諏訪
- 荒木 啓太 浩二 蔵王団地
- 下楠蘭梨花子 靖 中央

平成4年11月在宅医表

1	ザ王病院	内科・胃腸科・循環器科・理学療法科 加治木町反土2151-1 ☎62-4611
3	徳永医院	内科・皮膚科・小児科 溝辺町麓1009 ☎58-2302
8	鬼丸小児科	小児科 加治木町新生町127 ☎62-0308
15	松本外科	外科 加治木町木田724 ☎63-1911
22	加治木整形外科	整形外科・理学療法科 加治木町港町147-2 ☎62-3711
23	加治木温泉病院	内科 加治木町木田4714 ☎62-0001
29	玉利医院	内科・皮膚科 加治木町本町118 ☎62-2328
※ 診療時間は午前9時から午後5時まで。(原則として)		
※ 当日の往診ならびに緊急以外の受診は御遠慮ください。		

特別寄付

〔初盆返し〕
柳田 池田ユリ子(夫敏春三) 二万円
下新道 郡山フミエ(夫 甲七) 二万円
九月二十日までの御寄付を掲載いたしました。(年齢は満年齢)

寄贈

ハナミズキの苗木 三十本
日野グリーンドライバークャンペーンとして
鹿兒島日野自動車(株)
代表取締役社長 種子田 眞

町身障福祉協議会へ

於里 堀 道男(母 フデ八五) 三万円
須崎 白濱寅行(母 シナ八三) 三万円
岩原東 高橋彌太郎(妻順子四八) 十万円
弥勒 湯川武雄(妻 アイ八三) 五万円
向江町 下楠蘭トメ(夫豊榮九二) 三万円
下新道 郡山フミエ(夫 甲七) 三万円

町老人クラブ連合会へ

- 三万円 弥勒 平田静哉(妻 よし七)
- 二万円 西反土後 仮屋蘭スミエ

- 二万円 向江町 下楠蘭トメ(夫豊榮九二)